



QRコードを読み取り、令和4年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



さの としお
佐野 寿夫
(公明会)

市内の再生可能エネルギー発電の普及促進と電力の地産地消について

問 市内の発電電力を市内で消費していく体制づくりについて。

部長 再生可能エネルギーの地産地消は、ゼロカーボンシティの実現と地域経済の活性化において大変重要な取組だと認識している。市として、包括連携や地域循環共生圏事業を通じ、地産地消の実現に向けて積極的に推進していく。

問 営農型再生可能エネルギー発電の現状について。

部長 令和4年5月末現在において、農家数は8人で、作物としては、茶、露地野菜、サカキ、水稻などを営農しており、20か所で営農型太陽光発電をしている。

富士宮市民への健康施策について

問 特定健診の受診率は。

部長 コロナ前の令和元年度以前6年間の平均受診率が36.1%であることから、令和2年度がマイナス2.9ポイント、令和3年度がマイナス0.8ポイントとなり、令和2年度が新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けている。

問 带状疱疹ワクチン接種の助成について。

部長 静岡県下においては吉田町のみ助成にとどまっている。国における定期接種化に向けた動きや、県内他市町の状況などの情報収集に努める。

問 子宮頸がん用ワクチン接種勧奨の再開後の周知方法について。

部長 平成9年4月2日から平成17年4月1日生まれの対象者に対しては、令和4年10月1日から令和7年3月31日までの間、接種歴を確認の上、所定の接種費用を償還払いできるよう準備を進めている。キャッチアップ接種及び償還払いの通知に関しても、早期に対象者に案内できるように、併せて準備していく。



さの かずひこ
佐野 和彦
(富岳会)

耕作放棄地、放置森林及び放置竹林の活用

問 農地の集約化はどの程度進んでいるか。また、集約できないところの対策はどうするのか。

部長 令和3年度の参考値だが、中山間地域の農地面積2,481㌦に対し、199.5㌦となっており、圃場整備率は8%となる。農業者が永続的に利活用できるよう担い手の確保、農地の集約化に向けた整備が急務。国は令和4年5月に農業経営基盤強化促進法を改正し、令和6年度末までに市町村に対し地域計画を義務付けた。市として、期限内に地域計画策定に努め、情報を聴取し基盤整備事業の実施に取り組む。

問 竹林整備に係る補助金を検討できないか。

部長 以前、竹林伐採事業補助金があったが、竹破砕機の貸出事業に転換し、現在3台体制で貸し出している。補助事業は、静岡県の森づくり

県民税を財源にした森の力再生事業があるので、周知を図り竹林整備に努める。

市制施行80周年イベントと感染対策の今後

問 御神火まつり、宮おどり、富士宮まつり秋宮、信長公黄葉まつりをはじめ多くの祭りがあがるが、全国を見ると通常開催に近い形態になっているが、富士宮市の勢いを示す大きな岐路になるが、考えを伺う。

部長 国の感染評価レベルが下がろうとも、コロナ終息とならない限りは、対策をしないとしないため、多少の規模縮小もある。各実行委員会が例年以上に打ち合わせを重ね、計画を立てているので、最良の形で開催できるように検討する。

問 コンビニで交付できる証明書の種類を増やせば窓口の負担軽減にもなるがいかがか。

部長 今後の状況を見ながら、検討をしていく。

問 富士市は7種類あり料金も安いですが、当市も検討できないか。

部長 今後、検討をしていきたい。